

令和3年2月25日（木曜日）

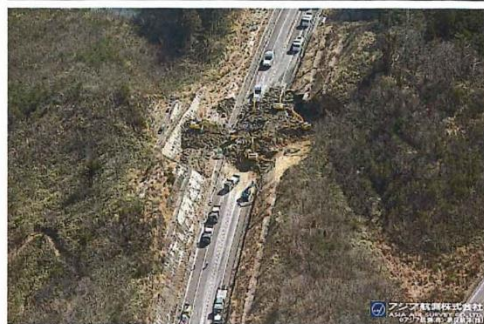
## 福島沖地震

## 公共交通網ほぼ復旧

足立  
参院議員

これまでの対策が効果発揮

福島県沖地震で被災した公共交通網が24日までにほぼ復旧した。運転を見合わせていた東北新幹線は同日



常磐道のり面崩落現場（14日撮影、アジア航測・朝日航洋提供）

始発から全線で運転を再開。土砂崩れのため通行止めした常磐自動車道は17日に全線開通した。19日に開かれた参院災害対策特別委員会の理事懇談会で、自民党の足立敏之参院議員は「インフラ被害は限定的。東日本大震災以降進めてきた鉄道や道路などの耐震化対策などが大きな効果を発揮した。建設業が頑張った証拠」との見解を示した。

13日午後11時8分ごろ、福島県沖を震源とするマグニチュード（M）7.3の地震が発生し、福島県相馬市などで最大震度6強を観測した。北海道から中国地方まで広い範囲で揺れを観測し、その後も余震が続いた。

東日本大震災以降実施してきた鉄道の高架橋・橋梁の耐震補強はほぼ完了し、電化柱約2200本の耐震補強も終わっている。今回の地震では電化柱20本（東日本大震災約810本）が損傷したものの、高架橋柱（約120本）に大きな被害はなかった。在来線は運転を続け、東北新幹線も11日後（49日後）に全線で運転を再開した。

直轄国道、補助国道とも通行止めはなかった。常磐道は相馬市で幅70センチにわたるのり面が崩壊。土砂の撤去に加え、路肩に落石防護柵や大型土のうを設置するなど安全対策を実施し、地震発生以来4日ぶりの全線開通となった。被災現場が暫定2車線だったことを踏まえ、足立氏は「もし4車線だったら早期に復旧できた。高速道路の円滑な復旧が図られるように4車線化を加速してほしい」と訴えた。

東京電力・東北電力の管内で最大95万戸の停電が発生。全域停電（ブラックアウト）を回避するため自動的に一部地域を停電させ、需給バランスを調整する措置だった。足立氏は危機的状況の回避措置を評価する一方、「あらかじめ住民に伝えておけば良かった」と述べた。

インフラ老朽化対策などメニューを拡充した「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」（2021～25年度）が始動する。足立氏は耐震化対策などの着実な推進が大きな効果を発揮した今回の地震を踏まえ「やらなくてはいけないことはまだまだある」と警鐘を鳴らした。